

「ね」「よね」「よ」発話と後続発話タイプ —異なる2つの発話内容を用いて—

西郷 英樹

要旨

西郷(2016)で紹介した談話完成テスト(拡大版)で得られた母語話者の内省データを基に以下の2点を考察した。(1)同じ場面に現れた同一の発話内容に発話末詞「ね」「よね」「ね」がそれぞれ付加された後に、どのような発話が続くのが自然だと日本語母語話者は考えるのか。(2)同じ発話末詞が付加されても、発話内容が異なる場合、後続する発話にはどのような影響があるのか。考察の結果、後続する発話は同意、反意、気づき、展開、連続、無関係という6つのタイプに分類でき、これらの選択は、付加される発話末詞だけではなく、発話内容が交感的か課題遂行的か、にも大きく影響されていることがわかった。

【キーワード】 終助詞、発話連鎖、談話完成テスト、交感的、課題遂行的

1. はじめに

日本語学習者は発話末詞「ね」「よ」(以下、ネ、ヨ)の習得がなかなか進まないことはこれまでたびたび指摘されてきた(池田1995; 柴原2002; ナズキアン2005; 初鹿野1994; Sawyer1992)。長年、短期交換留学生を対象に日本語を教えている筆者はこの状況の改善を目指し、ネ、ヨの効果的な教え方の構築のため、これら発話末詞の質的・量的研究を行っている(西郷2005; 西郷2011; 西郷2012; 西郷2015; 西郷2016; Saigo2011等)。目下、2014年から2015年にかけて実施した談話完成テスト(拡大版)⁽¹⁾で得た内省的データの分析・考察をおこなっている。

2. 本研究の位置づけ

発話末詞ネ、ヨは、これまで非常に多くの研究がなされてきた。その理由の1つ

に、これら発話末詞は日本語の会話に高頻度で現れ、それなしでは円滑な会話がままならない(大曾 1986; Cook 1990)ほど、日本語の会話の構造に深く関わっていることが挙げられる。

80年代後半から90年代前半までのネ、ヨの研究は、「話し手と聞き手の認知状態の一致・対立」(大曾 1986; 陳 1987; 益岡 1991)、「情報の帰属」(神尾 1990; Maynard 1993)という考えを基にした研究であった。前者を基に行われた議論・主張は、ネ、ヨの典型的な用法を押さえており、また理解しやすいこともあり、現在の日本語教育でのネ、ヨの文法解説の基になっている。

しかしながら、このような考え方では説明がつかないネ、ヨの用法が容易に見つけられることも指摘されてきた(今村 2011; 加藤 2001; 金水 1993)。90年代後半に入ると、「話し手と発話内容との関係性」に焦点を当てた研究が発表され始め、ネ、ヨの研究に新たな知見をもたらした(片桐 1995; 加藤 2001; 金水・田窪 1998; Katangiri 2007; Takubo and Kinsui 1997)。しかしながら、このような考え方を基にした研究で得られた知見の多くは、日本語教育で活用するには難解かつ抽象的であり、いまだ日本語教育の現場には結びついていない。その後もネ、ヨを取り上げた研究は数多く発表されている(閻 2016; 大島 2013; 顔・松村 2013; 白井・白井 2016; 服部他 2017; 船戸 2012; 森田 2017; Morita 2012a; Morita 2012b 等)が、日本語教育への応用を射程に収め、ネ、ヨの意味機能の解明に取り組んでいる研究(今村 2011; 高 2011; 崔 2016; 立部 2014 等)は少ない。そのため、前述のように、学習者のネ、ヨの習得がなかなか進まないと指摘されてきたにも関わらず、日本語教育でのネ、ヨの扱い、またその指導法は旧態依然のままである。

そのような中、筆者は「どのような目的で、ネ・ヨを会話(発話のやり取り)で使うのか」という学習者の勘所を押さえた文法解説の構築を目指し、発話連鎖という考え方をを用いて、会話でのネ、ヨの働きの考察を続けている。Saigo (2011)では、ネ、ヨ、ヨネ、そして裸文末形式の意味機能に関する仮説を立て、独自の自然発話データを用いてその妥当性を検証した。自然発話データは本物の会話を分析・考察できることがその利用の最大の利点であるが、会話参加者を取り巻くさまざまな環境的、物理的要因、また彼らの心理的、認知的要因に影響を受けて現れた言語データであるため、会話の構造が非常に複雑で、その分析・考察自体も複雑なものにならざるをえない。筆者の研究動機が日本語教育の現場への応用・還元であることを

考えると、ネ、ヨ、ヨネの意味機能の違いをよりわかりやすく際立たせる必要性も感じ、一旦自然発話データの分析から離れ、場面や協力者の属性を操作しやすい談話完成テストで内省データを収集することに決めた。まずは、パイロットスタディを母語話者 6 名に対して行い、そのテスト内容及び成果を西郷 (2012) にまとめた。その後、テスト内容に改良を加え、談話完成テストの拡大版を実施し、テスト内容およびデータ処理方法について西郷 (2016) で報告した。本稿では、談話完成テスト〈拡大版〉で得たデータの一部を用いて、引きつづき、ネ、ヨ、ヨネを発話連鎖の観点から分析・考察した。

3. 談話完成テスト〈拡大版〉実施内容

2014 年夏から 2016 年秋にかけて、談話完成テスト〈拡大版〉を、日本語母語話者 (NS)、日本語学習者 (NNS) を対象に実施し、分析対象データを NS、NNS それぞれ 50 人分集めた²⁾。テスト協力者の詳細は以下の通りである。

表 1：テスト協力者

NS	50 名(女 43/男 7)で、全て筆者所属機関の学部生。近畿地方出身が全体の 70.0% (35/50)。
NNS	50 名(女 37/男 13)で、その内訳は留学生別科に在籍する短期交換留学生 39 人、学部留学生 4 人(全て韓国語母語話者)、大学院留学生 7 人(全て中国語母語話者)。短期交換留学生の日本語レベルは、中級前 22 人、中級後 8 人、上級前 7 人、上級後 2 人(筆者勤務校日本語プログラムにより実施されたプレースメントテストに拠る)。

以下、本稿での議論に関連するテスト内容を簡潔に紹介する。

3.1 同じ場面での同一発話内容

同じ場面での同一発話内容に、ネ、ヨネ、ヨがそれぞれ付加された場合、その後どのような発話が続くのが自然か、テスト協力者に想像してもらい、その発話のやりとりを書いてもらった。分析データは次ページの 2 場面である。

【場面 1】彼女 (まき) が彼氏 (たけし) に電話をしている。

彼女: おはよう、たけし。

彼氏: あ、おはよう。

彼女: 今日、めっちゃ暑い {ネ、ヨ、ヨネ}。←指示発話



【場面2】彼女（まき）と彼氏（たけし）が空港ロビーで自分たちのフライトを待っている。

彼女：あ、そろそろ時間だ【ネ、ヨ、ヨネ】。←指示発話



2つの異なる場面の指示発話（＝ネ、ヨ、ヨネが付加されている発話）はともに叙述文であり、その後に4行分の自由記入スペースを設けた（図1参照）。

(彼氏):	<u>そうやけど。</u>
(彼女):	<u>ちゃんとチケットを確認した？</u>
(彼氏):	<u>うん。ほう11時半からだから、もうすぐやぞ!</u>
(彼女):	<u>そしたら、早く準備して向かおうか？</u>

図1. テスト回答例

図1の左端の（ ）内は発話者であり、これもテスト協力者に自由に決めもらった。各場面の指示発話内容＋ネ/ヨネ/ヨの提示順序は、本稿では分析対象としない依頼文が現れる2つの場面と共に、ランダムに提示した³⁾。

4. テスト結果・考察

本稿で分析対象とするのは、指示発話の直後に現れた発話（以下、後続発話）である。図1では、彼氏の「そうやけど」が該当する。これは指示発話内容に付加されたネ、ヨ、ヨネの発話連鎖効力に最も影響を受けていると考えたためである。

4.1 6つの後続発話タイプ

後続発話は、発話連鎖の観点から大きく6つのタイプに分類できた。以下は、それぞれのタイプの説明と、実際の回答例（各2つ）である。

- ① **同意タイプ**：指示発話に対して聞き手が同意を表明しているもの
場面1：「そうやな。」「ほんまに暑すぎ。」
場面2：「そうだね。」「せやなー。」
- ② **反意タイプ**：指示発話に対して聞き手が反意を表明しているもの
場面1：「えっそうかな。」「んー、いやでも昨日の方が暑い気がするけどな。」
場面2：「え、まだやろ?」「ちやうで、あと30分あるで。」
- ③ **気づきタイプ**：指示発話の内容を初めて知ったという聞き手の気づきを表明しているもの
場面1：「うそやーん。」「え、まじで?」
場面2：「え、もう?」「あ、ほんとだ。」

- ④ **展開タイプ**：指示発話の内容を基に聞き手が話を展開させているもの
 場面1：「プール行きたいなあ。」「どっか行こうと思ってたけどやめる？」
 場面2：「楽しみやけど、飛行機こわいわ。」「やっと日本食食べれるー！」
- ⑤ **無関係タイプ**：聞き手からの後続発話の内容が指示発話の内容と全く関連性がないもの
 場面1：「来週の日曜、どっか行こうよ。」「今日何限授業？」
 場面2：（該当する回答なし）
- ⑥ **連続タイプ**：指示発話の内容を基に話し手自身が続けて話を展開させているもの
 場面1：「今、何してるの？」「ねえ、今ひまだったらさ、どこか行こうか！」
 場面2：「やっと出発できる。」「あれ、あたしパスポートどこ入れたっけ？」

4.2 場面別考察

次に、以上の6つの異なる後続発話タイプがそれぞれ2つの場面の後続発話でどの程度占めているか、考察する。

4.2.1 場面1 [今日、めっちゃ暑い]

図2は、指示発話内容 [今日、めっちゃ暑い] +ネ/ヨネ/ヨの後続発話の中に後続発話タイプがそれぞれ占める割合を示したものである。図中左端のネ発話とは [指示発話内容+ネ] の略である（ヨネ発話、ヨ発話も同様）。

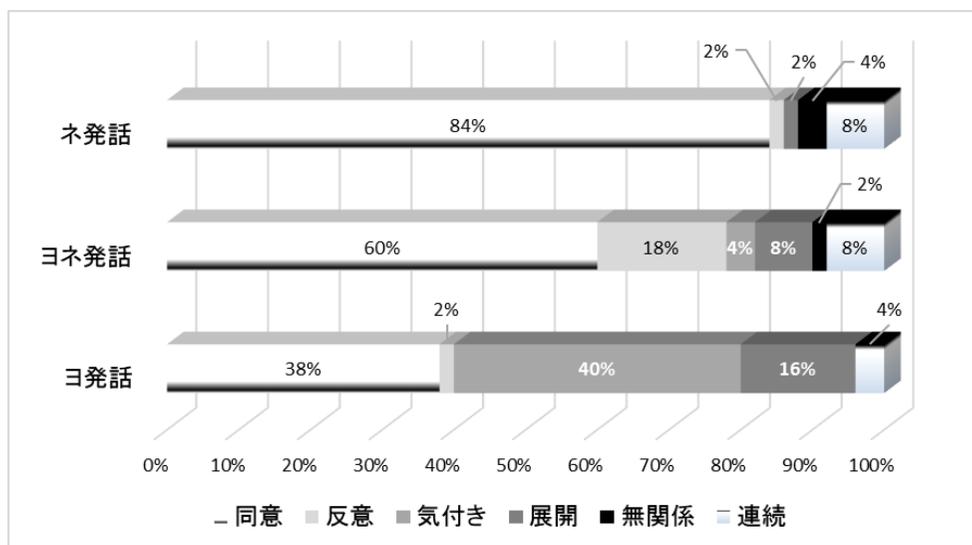


図2. 場面1 [今日、めっちゃ暑い] の後続発話タイプ

4.2.1.1 想定内の [ネ発話→同意タイプ]

図1を概観すると、同意タイプの割合の高さがまず目につく。発話末詞別に同意タイプの割合をみてみると、ネ発話が84%⁽⁴⁾、ヨネ発話が60%、ヨ発話が38%と、同意タイプの割合が20%強の割合で低くなっていることがわかる。以下、それぞれの回答例を1つずつ紹介する。

[場面1：ネ発話→同意タイプの回答例]

1. NS19 (男/19/兵庫)⁽⁵⁾

(彼氏): ほんまやな。
(彼氏): 先週めっちゃ寒かったのにな。
(彼女): ほんまにな。
(彼女): 体調おかしたわ。

[場面1：ヨネ発話→同意タイプの回答例]

2. NS5 (22/女/和歌山)

(彼氏): うん、この暑さはやばいな。
(彼女): 私なんか暑すぎてアイス3つも食べてしまったわ。
(彼氏): それは食べすぎちゃう？
(彼女): 暑すぎて我慢できんからてん!

[場面1：ヨ発話→同意タイプの回答例]

3. NS49 (男/19/高知)

(彼氏): 暑いなー
(彼氏): 食欲出んわ。
(彼女): え、大丈夫?
(彼女): とっか、ご飯食べに行こっか!

今回の結果から、ネ発話の直後に同意タイプが現れる割合が最も高く、反対にヨ発話の直後に同意タイプが現れる割合はネ発話の半分以下であること、そしてヨとネの複合体であるヨネ発話の直後に同意タイプが現れる割合はネ発話とヨ発話のおおよそ中間にあることがわかる。指示発話内容が全く同一であることを考えれば、これらの割合の違いは、ネ、ヨネ、ヨがそれぞれ持つ発話連鎖効力の違いであると

いえよう。つまり、ネは、ヨと比べ、直後に同意タイプを求める効力が明らかに強いといえる。この結果は、日本語教師にとって何ら意外なものではないだろう。それは、日本語教育で一般的になされているネの文法解説と一致するからである。

4.2.1.2 一見、想定外の [ヨ発話→同意タイプ]

同意が現れる割合が低かったとはいえ、ヨ発話の直後に 38% も同意が現れていることは、日本語教師にとっては意外に映るだろう。

[場面 1 : ヨ発話→同意タイプの回答例]

4. NS3 (女/20/大阪)

- (彼氏) : ほんまに! 溶けるか思ったわ。
- (彼女) : 外でられへんわ。
- (彼氏) : 今日休みや、け?
- (彼女) : うん、そう。

5. NS26 (男/21/京都)

- (彼氏) : うん。
- (彼氏) : 今起きてんけど、寝汗やバィわ。
- (彼女) : うわ、また、とりあえずシャワー浴びてきたら。
- (彼氏) : うん、そうするわ。

この結果が日本語教師にとって、なぜ意外なのか。それは、日本語教育でヨは相手が未知の情報に付けられると一般的に解説されているからである。ヨ発話の直後の気づきタイプの割合が、ヨネ発話 (4%)、ネ発話 (0%) と比べても高い (40%) ことから、この解説は的外れなものではなく、ヨの特徴を端的に表しているといえる。

[場面 1 : ヨ発話→気づきタイプの回答例]

6. NS4 (女/19/京都)

- (彼氏) : まじど? 俺、今日サッカーの練習あんのに - 0
- (彼女) : 熱中症、気をつけなよ。
- (彼氏) : 飲みもん、いっぱい持ってくわ。ありがとうな!
- (彼女) : は - い。がんばってね。

7. NS5 (女/22/和歌山)

- (彼氏): え, そうなん?
- (彼女): え, もしかして今起きたとか?
- (彼氏): うん, めっちゃ寝たわー。
- (彼女): いや, 寝すぎだろう!

しかしながら、ヨ発話の直後に、気づきタイプ(40%)とほぼ同じ割合で同意タイプ(38%)が現れたという今回の結果は、日本語教育で一般的なヨの意味解説が、ヨの核となる意味機能を掘めていないことも示しているのではないだろうか。つまり、ヨは発話内容が聞き手の未知の情報ではないときにも使われ(西郷 2015)、また、今回の結果のようにヨ発話の後に同意が現れることもあるのである。未知の情報の伝達というのは、ヨの核となる意味機能から派生した特徴的な用法の一つでしかないのである。

筆者は、西郷(2015)、Saigo(2011)等で、ヨは話を展開させる(=一步前進させる)発話連鎖効力があると指摘した。この説明では、聞き手が既知の発話内容ヨが付加されてもなんら想定外ではない。回答例4、5では、彼氏が同意を示した後、続けて「溶けるか、思ったわ。」(回答例4)、「今、起きてんけど、寝汗ヤバイわぁ。」(回答例5)と話を一步進めていることがわかる。⁶⁾

4.2.1.3 交感的な指示発話内容

後続発話タイプの決定に影響を及ぼすのは、発話末詞だけではなく、指示発話内容も大きく関わってくる。彼女が彼氏に電話をしている場面1での「今日、めっちゃ暑い」という指示発話内容の場合、一般的に考えて、暑いので一緒に外出する予定を延期したい、など課題遂行的な発話というよりは、交感的な、いい換えれば、挨拶的、雑談的な性格を持つ発話だと解釈されるのではないだろうか。交感的な性格が強い発話の場合、その内容は、聞き手(この場合は、彼氏)が容易に同意できるようなものになることが一般的であろう。そのため、指示発話内容に付加された発話末詞の種類に関わらず、聞き手は、まず初めに同意タイプを表す傾向が高くなると考えられる。つまり、ネのように後続発話に同意を求める効力が強い場合は、同意タイプの割合がより高くなり、同意を求める効力が弱いヨでも、同意タイプの割合がそれなりに高くなると考えられる。このように考えれば、図1の結果も合点がいくのではないだろうか。発話末詞の先行研究の中で、指示発話内容が後続発話

タイプに及ぼす影響について明確に触れているものは、管見の限り、本稿が初めてである。

4.2.1.4 日本語教育現場での指導の観点から

このように考えると、発話末詞の意味機能は、それらが付加されている指示発話内容の影響と切り離して考えることはできないといえる。この点を日本語教育という文脈で考えてみると、日本語教育でネ、ヨネ、ヨを教える際、それが付加される発話内容から切り離して、それぞれの意味機能を教えても、学習者の運用能力向上にはつながらないといえるだろう。例えば、以下のようなネの使い方をするのではないだろうか。

(友人同士の会話)

- 1 田中：お前の誕生日って10月だよな？
- 2 岩木：あ、9月だネ。←
- 3 田中：あ、そうだったっけ？

ネを用いた2行目の岩木の発話の後、3行目の田中の発話に同意は現れていない。このような使い方のネは、「ネは同意を求める時に使う」とだけ教わった学習者にとってはそう簡単に理解できないであろう。このネの使い方は「相手の間違いを訂正するとき、一方的な訂正行為を和らげるために、ネを用いることもある」などと説明をする必要があるだろう。このように具体的な発話のやりとりの中でネの働きを取り上げて教えなければ、ネの運用能力の向上には結びつかないであろう。学習者がネやヨをなかなか使えるようにならないのは、現在の日本語教育でのネやヨの教え方がこのような発話のやりとりの中で具体性に欠けているのも一因だと考える。

4.2.1.5 ヨネと反意タイプ

ヨネ発話の後続発話の中で、反意タイプが2割弱(18%)であることもわかった。

[場面1：ヨネ発話→反意タイプの回答例]

8. NS44 (男/20/大阪)

- (彼氏): え、そうかな。少し寒いと思うけど
- (彼女): たけして寒がりだね。
- (彼氏): まきが暑がりをたけたさ？
- (彼女): そうかも(まない音)。

9. NS15 (女/20/神奈川)

(彼氏): そんなことなくて
 (彼女): はよ? 暑^いから!
 (彼氏): お前が着せろだけだろ
 (彼女): 電話こしなかにして! 分かるよ!

18%という割合は一見それほど大きく思えないが、ネ発話、ヨ発話の場合がどちらも2%であったことを考えれば、反意タイプはヨネの特徴的な用法と強く結びついている可能性が高い。では、ヨネ発話の後に、なぜ反意が2割弱も現れたのだろうか。ヨネは、その使用頻度の高さにも関わらず、ネやヨと比べると、日本語教科書や日本語教育関連図書で触れられることは多くない(西郷 2011)が、確認をするという意味機能があることはしばしば指摘されてきた(伊豆原 2003; 蓮沼 1995; 深尾 2005)。テスト協力者が、彼女の「今日、めっちゃ暑いヨネ。」を確認だと解釈すれば、彼氏の応答の選択肢は、同意か反意になる。そして、2割弱のテスト協力者が聞き手(彼氏)に反意を表明させたと考えれば、ネ発話およびヨ発話と比べて、反意タイプの割合が高かった今回の結果の説明がつく。

4.2.1.6 ネ/ヨネ/ヨと展開タイプ

後続発話に展開タイプが占める割合は、ヨ発話が16%、ヨネ発話が8%、ネ発話が2%と低くなっており、発話末詞間に明らかな差がみられた。

[場面1: ヨ発話→展開タイプの回答例]

10. NS41 (女/20/香川)

(彼氏): こは日は海行きたいな
 (彼女): 私は室内プールかええわあ。
 (彼氏): ええもアイヤあ。
 (彼女): 今日、行か?

11. NS33 (女/21/兵庫)

(彼氏): これは温暖化のせいやな
 (彼氏): 秋でこれはあがいて。
 (彼女): んで、冬は冬でめっちゃ寒いやろ。
 (彼女): えー どうなるん、地球!

[場面 1 : ヨネ発話→展開タイプの回答例]

12. NS11 (女/19/滋賀)

- (彼氏): 昨日まで寒かったのにね。
(彼女): 昨日とか上着着てたのに今日、いらんね。
(彼氏): 今日なんが自分、フーラつけたぞ。
(彼女): いや - 暑いけど"また"ちょっとフーラは早いやろ。

13. NS24 (女/20/大阪)

- (彼氏): 暑いから今日は家で映画観よ。
(彼女): いいよ。何か買って来てほしいものある？
(彼氏): うん。フーラと... あとこれがあるかな。
(彼女): なら、近所のファミマに来て、一緒に買いたいよ。

[場面 1 : ネ発話→展開タイプの回答例]

14. NS4 (女/19/京都)

- (彼氏): どこか行こうと思ってたけどやめる？
(彼女): えー、家にもつまんないよ。フールとかどう？
(彼氏): 俺、水着持っていないからなー。
(彼女): じゃあ、夏のために水着買いに行こうよ。私も欲しいし！

この結果から、ヨの発話連鎖効力が薄れていくと共に、展開の割合も低くなっているといえそうだ。ここで、ヨが含まれているヨネ発話にもヨ発話と同じようなヨの発話連鎖効力があるのではないかという疑問がでてくる。言い換えれば、なぜヨネ発話はヨと同じ割合の展開タイプが続かないのか、という疑問である。これは、ヨネのヨはネのスコープに入っていると考えるのが論理的であろう (西郷 2015; Saigo 2011)。つまり、ヨ発話がネというオブラートで包まれ、ヨの効力が弱まっているという説明である。

4.2.2 場面 2 [あ、そろそろ時間だ]

次頁の図 3 は、指示発話内容 [あ、そろそろ時間だ] にネ、ヨネ、ヨがそれぞれ付加された直後の後続発話タイプの割合を示したものである。同図を概観してみると、図 2 の概観と大きく違うことがわかる。特に図 2 と比べて、図 3 は全体的に同意タイプの割合が低く、気づきタイプおよび展開タイプの割合が高いことがわかる。

以下、図2との比較も交えながら、ネ発話、ヨネ発話、ヨ発話の順に考察を進め、最後に無関係タイプにも少し触れたい。

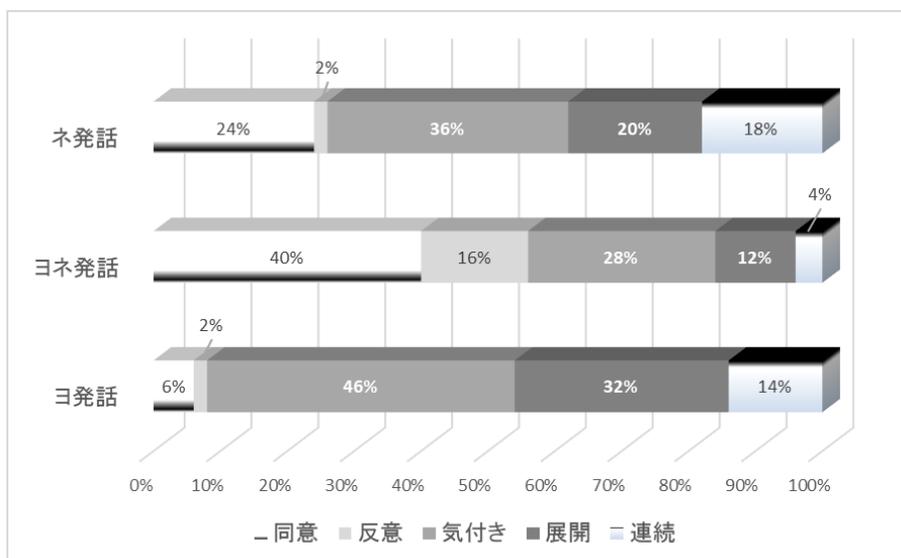


図3. (場面2) [あ、そろそろ時間だ] の後続発話タイプ

4.2.2.1 ネ発話の後続発話

4.2.2.1.1 気づきタイプと同意タイプ

場面1で0%であったネ発話の気づきタイプは、場面2では最も割合が高く、36%であった。

[場面2：ネ発話→気づきタイプの回答例]

15. NS3 (女/20/大阪)

(彼氏): あ、ほんまや。行ニか。

(彼女): うん!

(彼氏): 忘れもんない?

(彼女): ないよー。

16. NS15 (女/20/神奈川)

(彼氏): まじ? もうとんじ時間?

(彼女): え、時計持てないの?

(彼氏): 持てない

(彼女): 私も持てないけどね

反対に、場面1のネ発話では最も割合が高かった同意(84%)は、場面2ではその約3割弱(24%)しか現れていない。

[場面2:ネ発話→同意タイプの回答例]

17. NS43 (女/18/大阪)

(彼氏): そやな。そろそろ向かうか。
(彼女): あー、東京楽しめやな。着いたら何する?
(彼氏): まずはお寿司やろ!!
(彼女): やっぱりそうよな!!

18. NS48 (女/19/熊本)

(彼氏): そうだね
(彼女): 飛行機で2.5時間かかるとか知らなかった。
(彼氏): 前もどきで11:11:64Cだよ。
(彼女): だ、楽しめやな。えん。

ここで一点注意すべき点がある。それは、場面2で同意タイプに分類した回答は、気づきタイプと解釈できるものも多いことだ。例えば、回答例17および18の1行目である「そやな」「そうだね」である。しかしながら、場面2の後続発話タイプの分類作業の際、気づきタイプだと明らかに判別できるもの(=そう言われるまで聞き手が気が付かなかったと明確にわかるもの)以外は、すべて同意タイプとして分類した。そのため、テスト協力者の回答時の意図よりは結果的に同意タイプの割合が高く、気づきタイプの割合が低くなっている可能性が高い。つまり、気づきタイプの割合が36%よりもさらに高く、同意タイプが24%よりもさらに低くなっていた可能性があるということである。

4.2.2.1.2 一見、想定外の[ネ発話→気づきタイプ]

気づきタイプは未知の情報を聞いた時に典型的に現れる応答の一つであり、日本語教育での一般的な解説を基に考えれば、ネ発話の後に現れる典型的な応答である。また日本語教育での一般的なネの解説を基に考えると、その後に現れる典型的な応答は同意である。しかしながら、場面2のテスト結果では、ネ発話直後にも関わらず、同意タイプの割合が低く、反対に気づきタイプの割合が高くなっている。この

ような想定外の結果になった理由として、場面2の指示発話内容の影響を挙げたい。場面2の「あ、そろそろ時間だ」という指示発話内容は、場面1の「今日、めっちゃ暑い」のような交感的（挨拶的、雑談的）な意図で発せられたものだと解釈しにくい。テスト協力者の多くは、「あ、そろそろ時間だ」と発した話し手（彼女）の意図を、搭乗時刻が迫ってきたことを彼氏に気づかせることにあると解釈したのであろう。つまり、場面2の指示発話内容は、場面1とは異なり、課題遂行的性格が強い発話なのである。多くのテスト協力者が、話し手（彼女）の発話意図をそのような課題遂行的なものだと解釈すれば、気づきタイプが聞き手（彼氏）の応答に現れる傾向が高くなると考えるのが論理的であろう。このように考えれば、一見想定外な結果もうまく説明がつくのではないだろうか。

4.2.2.1.3 一見、想定外の「ネ発話→展開/連続タイプ」

未知の情報を知らされたときの聞き手の応答は、気づきだけではない。新たに得た情報を基に話を展開させる（＝一歩前進させる）ことも考えられる。そのため、場面1（2%）と比較して、場面2での展開タイプの割合が20%と明らかに高いことはなんら驚きではない。

[場面2：ネ発話→展開タイプの回答例]

19. NS18（男/20/大阪）

（彼氏）： そろそろ行く？

（彼女）： 水買ってから行きたい。

（彼氏）： コンビニ行こかー

（彼女）： うん。

20. NS35（女/19/奈良）

（彼氏）： よたらどーしょ。

（彼女）： お前まだそんな言っとんのが。はやく行こで。

（彼氏）： 待って、もう一回トイレ行ことこ。

（彼女）： 飛行機の中でもトイレは行けるんやで。

また、話し手（彼女）が聞き手（彼氏）に未知の情報を伝えた場合、話し手自身が発話の意図をより明示的に示すために、発話を続けることもある。場面2で話し手

(彼女) が話を続けている連続タイプの割合は 18%で、場面 1 (8%) の 2 倍以上である。これも場面 2 の課題遂行的な指示発話内容が影響をしているといえる。

[場面 2 : ネ発話→連続タイプの回答例]

21. NS2 (女/20/奈良)

- (まき) : もうそろそろ 搭乗口 行かな
(たけし) : トイレ 行った?
(まき) : 女子トイレ 並んでいるから あつしほえわ
(たけし) : 真ん中の 席 かつし知らんじー ちびんほよ

22. NS33 (女/21/兵庫)

- (彼女) : カート どこ かつし
(彼氏) : まっ、確認 するわ
(彼氏) : えーっと、一番 奥 やわ
(彼女) : じゃあ 前まで 行っとこ

以上、一見想定外のネ発話の後続発話タイプの結果から、話し手は聞き手から同意を引き出したい時にだけネ発話を用いるわけではないことがわかる。

4.2.2.1.4 日本語教育のネの文法解説は役に立たないか

このように考えると、ここで一つの疑問が出てくる。ネが聞き手から同意を引き出すという文法解説は学習者の役に立たないのではないか、という疑問である。筆者は 4.2.1.4 で、具体的な発話の流れの中でネを教えなければ実用的ではないと述べた。しかし、筆者は役に立たないわけではないと考える。その理由として、今回の結果は、聞き手から同意を引き出すという、日本語教育でなされているネの基本的な意味機能と相反するわけではないからである。場面 2 で搭乗時刻が近づいてきていることは彼氏も気がついている可能性があり、一方的な情報提供の印象を和らげるために同意を求めるネ発話を用いたと説明ができる。仮に搭乗時刻が迫っていることに彼氏が明らかに気づいていない場合でも、一方的な情報提供は相手の不注意を明らかにしてしまう可能性があり、それを避けるためにネ発話を用いたという説明も可能であろう。このように考えると、場面 2 でのネの使用は、同意を求めるというネの意味機能からの派生的な用法であると学習者に伝えることができるであろう。

4.2.2.2 ヨネ発話の後続発話

4.2.2.2.1 ヨネと確認

場面1で4%であった気づきタイプの割合が、場面2では28%と全体の3割近く占めている。

[場面2：ヨネ発話→気づきタイプの回答例]

23. NS33 (女/21/兵庫)

- (彼氏): うそか もうそいな 終わった?
- (彼女): うん 早いね
- (彼氏): あっといっ間や
- (彼女): なー び、くり

24. NS5 (女/22/和歌山)

- (彼氏): え、もう?
- (彼女): うん、出発(5分前)やと思う。
- (彼氏): いよいよだね。ちょっと恐なってきたわ。
- (彼女): 大丈夫だって。一時間くらいしか飛ばんしね。

次に、同意タイプの割合は40%で、場面1の60%の3分の2であった。

[場面2：ヨネ発話→同意タイプの回答例]

25. NS34 (女/19/奈良)

- (彼氏): ん。そろそろだね。
- (彼女): 機内食 楽しみやわー
- (彼氏): スープとか ジュース もらえんやけ?
- (彼女): そうやでー めっちゃ 美味いやっね!

26. NS18 (男/20/大阪)

- (彼氏): ん。
- (彼女): もう行く?
- (彼氏): コンビニ行ってから行こー。
- (彼女): おっけー。

場面1と比べ、気づきの割合が高く、同意の割合が低くなっているのは、ネ発話と同じ結果であり、これも課題遂行的な指示発話内容が影響していると考えられる。

しかしながら、ヨネ発話の同意タイプは、ネ発話ほど、場面1と場面2で割合に開きが見られない。ネ発話の同意タイプの割合は、場面1(84%)と場面2(24%)では60%も開きがあるのに対して、ヨネ発話は、場面1(60%)と場面2(40%)では20%しか開きがない。この違いは何が起因しているのだろうか。ネ発話とヨネ発話の指示発話内容が同じであることを考えれば、自ずと答えはネとヨネの典型的な意味機能の違いが原因であるといえる。4.2.1.5で述べたように、ヨネの典型的な用法の一つに確認がある。つまり、ヨネの使用が、[あ、そろそろ時間だ]という指示発話内容を(搭乗時刻が迫っていることを彼氏に気づかせるという解釈だけではなく、)彼女がそのような状況を彼氏に確認しているという解釈も可能にしているのである。場面2のネ発話の後の反意タイプが2%であったのに対して、ヨネ発話では16%であったことから、ヨネの使用で指示発話内容を確認だと解釈したテスト協力者が少なくなかったことがわかる。

[場面2:ヨネ発話→反意タイプの回答例]

27. NS1 (女/19/大阪)

(彼氏): 何うぞ、あと30分あるぞ。
(彼女): え、(20分)に? あ、ほんすや。
(): いやもうちねと おみやげ" みたー。
(彼氏): おけー。あつちの市行く。

28. NS8 (女/19/大阪)

(彼氏): え? まだ"ちやう? 12:45や3? また" 12:00やで"
(彼女): あと1時間もないやん! はよ乗りたい〜
(彼氏): いや〜 飛行機なにかしんど"いけ"けやぞ。
(彼女): だって乗ったことないもん! 墜落したらどうしよ、こわなてきた...
ごも

4.2.2.3 ヨ発話の後続発話

4.2.2.3.1 ヨと相性が悪い同意タイプ

場面1のヨ発話で2番目に多かった同意タイプの割合(38%)は、場面2では6%

と非常に低かった。

[場面2：ヨ発話→同意タイプの回答例]

29. NS39 (女/19/兵庫)

- (たけし): そうだね、もうお発の時間か...
(まき): 別れたいよ、まだ。
(たけし): でも、行かなきゃ行かないだ。
(まき): 気を付けて、行ってきてね。

30. NS3 (女/20/大阪)

- (彼氏): せやな。
(彼女): もう人めっちゃ並んでるわ。
(彼氏): もうちょっとでも良くない?
(彼女): せやな。

この同意タイプの割合の低さは、ネ発話、ヨネ発話の後続発話同様、課題遂行的な指示発話内容に影響を受けているといえる。しかし、場面2でのヨ発話後の同意タイプの割合の低さ(6%)は、ネ発話(24%)、ヨネ発話(40%)と比べても群を抜いている。これは論理的に考えて、ヨの使用が影響しているといえる。つまり、[あ、そろそろ時間だ]などの課題遂行的な指示発話内容に、未知の情報を聞き手に伝えるという典型的な用法を持つヨが付加された場合、その相乗効果で話し手が聞き手に同意を求めているという解釈の余地をかなり狭めてしまうことを意味している。

4.2.2.3.2 ヨと相性がよい後続発話タイプ

4.2.2.1.2 および4.2.2.1.3で考察したように、課題遂行的な指示発話内容にネが付加された場合は、気づきタイプ、展開タイプ、連続タイプが高い割合で現れることがわかった。テスト結果をみると、同じことがヨ発話の後続発話にも当てはまることがわかる。

① 気づきタイプ

場面2のヨ発話の後続発話タイプで最も多かったのは、場面1(40%)と同様、気づきタイプであった(46%)。

[場面2: ヨ発話→気づきタイプの回答例]

31. NS45 (女/19/大阪)

- (彼氏): お、ほいまや
(彼女): めっちゃドキドキする
(彼氏): え、なんで?
(彼女): 飛行機乗るん実初め2やねん

32. NS40 (女/20/和歌山)

- (彼氏): おっ! やっぴか! いよいよやね。
(彼女): えうね。めっちゃワクワクする。
(彼氏): えうね。乗る前にお茶だけ買いに行こ。
(彼女): いよ。

場面1で気づきタイプの割合がネ発話(0%)、ヨネ発話(4%)よりもヨ発話(40%)が明らかに高くなった理由として、未知の情報を伝えるというヨの典型的な用法が影響していると既に指摘した(4.2.1.2)。場面2でも、このヨの性格が影響をしていると考えられる。ここで、課題遂行的な指示発話にこのような用法を持つヨが付加されるなら、相乗効果でもっと気づきタイプの割合が高くてよいのではないかという疑問を持つかもしれない。しかし、後述するように、課題遂行的な指示発話内容の影響は、展開タイプと連続タイプにより如実に表れていることがわかった。

② 展開タイプ

場面1で16%であった展開タイプは、場面2ではその2倍の32%であった。

[場面2: ヨ発話→展開タイプの回答例]

33. NS30 (女/18/山梨)

- (彼氏): もう行かた声がいっぱい?
(彼女): うん。
(彼氏): おっレ。んびや行か!
(彼女): おっけー。

34. NS11 (女/19/滋賀)

- (彼氏): ハワイから帰るのもうとさみしいな。
(彼女): そうだね。
(彼氏): たのしかったら。タビレ"ン"。
(彼女): （お返しに!）タビレ"ン"した時の毎分恋してるね。

35. NS24 (女/20/大阪)

- (彼氏): ごめん ちょっとトイレ行ってくる。
- (彼女): うそお?! もう行かば間に合あんじ。
- (彼女): ほんとで先に行ってかん!
- (彼氏): えー... ほんから飛行機までかまんするわ...

回答例 33 (「もう行った方がいいかな?」) は、指示発話内容から聞き手 (彼氏) が話し手 (彼女) の意図 (= 搭乗口にそろそろ行ったほうがよい) をくみ取り、その意図を明示することでやり取りを展開している。回答例 34 (「ハワイから帰るのちょっとさみしいな」) と回答例 35 (「ごめん ちょっとトイレ行ってくる」) は、そのような話し手の意図を明示することなく、それを基に話を展開させている。

③ 連続タイプ

連続タイプは、場面 1 (4%) 比べ、場面 2 では 3 倍以上の 14% であった。これは、指示発話の後、話し手自身がその発話の意図を明らかにしたり、その意図を基に話を展開させたりしているテスト協力者が場面 1 よりも多かったことを意味する。これも、「早く搭乗口に行ったほうがよい」という話し手 (彼女) の意図が隠れている課題遂行的な指示発話内容の影響だといえる。

[場面 2 : ヨ発話→連続タイプの回答例]

36. NS16 (女/20/石川)

- (彼女): もう けけけのとろくにんか。
- (彼氏): せせな。トイレは?
- (彼女): 私 もうすませた。トイレは?
- (彼氏): 俺も大妹～。あ、荷物もつよ。

37. NS7 (女/20/新潟)

- (彼女): ちやこ 4777 とかもて子?
- (彼氏): 大丈夫だよ。まきこと 忘れたのた?
- (彼女): たぶん。。。あ、おせいびキリキースにたいち、た。
- (彼氏): まき、ほんのデジタルたから。

38. NS33 (女/21/兵庫)

- (彼) : わくわくするー
- (彼氏) : 飛行機 はじめて、で前ゆしたな
- (彼女) : そやねん
- (彼女) : 修学旅行も バスやったし

回答例 36～38 もすべて、「早く搭乗口に行ったほうがよい」という話し手(彼女)の意図からの展開だと考えると[あ、そろそろ時間だヨ→連続タイプ]の流れがしっくりくる。回答例 36(「もううけつけのところいこーか」)はその意図をそのまま明示することで展開している。回答例 37(「ちゃんとチケットとかもってる?」)はその意図を基に話を展開し、聞き手(彼氏)に準備が整っているかどうかを確認している。回答例 38(「わくわくするー」)はようやく搭乗口に行く時間が来たことに対して、話し手(彼女)自身がどのような感情を抱いているかを表すことで話を展開している。

4.2.2.4 無関係タイプ

最後に、指示発話内容と関連性がない後続発話である無関係タイプについて触れておきたい。図 1 をみてわかるように、場面 1 では無関係タイプがネ発話に 4%、ヨネ発話に 2%現れている。一方、場面 2 では無関係タイプは全く現れていない。

[場面 1 : ネ発話→無関係タイプの回答例]

39. NS2 (女/20/奈良)

- (彼氏) : 来週の日曜とか行こうよ
- (彼女) : 土曜 行ったら空いてるぞー
- (彼氏) : じゃあ 土曜 海遊館 行こうよ
- (彼女) : ええぞー

[場面 1 : ヨネ発話→無関係タイプの回答例]

40. NS35 (女/19/奈良)

- (彼氏) : 今 何してるん?
- (女) : ん、たらたら。テレビ見ながら宿題してる。
- (氏) : まさちゃん偉いぞやねん
- (女) : ふんとはおぞ。笑

場面1で現れている無関係タイプが場面2で現れなかったという結果は、それぞれの場面の指示発話内容の性格が大きく関わっている可能性がある。交感的な[今日、めっちゃ暑い]には、話し手がこの発話で達成したい具体的な目的がないが、課題達成的性格を持つ[あ、そろそろ時間だ]には、搭乗時刻が迫っていることを聞き手に気づかせる目的がある。話し手の発話に達成したい具体的な目的がないと聞き手が解釈した場合、聞き手は関連性のある話を続ける必要はないという意識を抱いてしまう場合もあるのではないだろうか。一方、話し手の発話に達成したい具体的な目的があると聞き手が解釈した場合、聞き手は話し手の意図を無視して関連性のない話をするわけにはいかない。そのため、場面2では無関係タイプが全く現れなかったといえないだろうか。

さらにいえば、場面1のヨ発話の後に無関係タイプが現れなかったのは、ヨには関連性のある発話で話を展開させる(=一步前進させる)発話連鎖効力があり(西郷 2015; Saigo 2011)、無関係な話をする余地を聞き手に与えないからだと考える。

5. おわりに

本稿では、交感的、課題遂行的という2つの性格が異なる指示発話内容にネ、ヨネ、ヨがそれぞれ付加されると、後にどのような発話が続くのか、を談話完成テスト(拡大版)で得た日本語母語話者の内省データを基に考察をした。その結果、指示発話内容の性格(交感的・課題遂行的)と付加される発話末詞(ネ・ヨネ・ヨ)とがお互いに影響を与えながら、後続発話タイプが選択されていることがわかった。

本稿でみたように、ネ、ヨネ、ヨが付加された発話の後に続く発話を詳細に観察することで、先行研究で照らされなかったこれら発話末詞の新たな側面がみえてくるのではないかと考える。日本語教育の現場に応用できる成果を追い求め、引き続き、発話連鎖という観点から発話末詞の研究を行っていきたい。

注

- (1) テストの詳細については、西郷(2016)を参照されたい。
- (2) NS51人分のデータを収集したが、そのうち1人のデータは場面の理解不足だと判断し、分析対象外とした。
- (3) 提示順序の詳細は西郷(2016)を参照されたい。
- (4) 分母(=テスト協力者)が50人なので、分母に占める一人当たりの割合は2%である。例えば、16%は8人、40%は20人ということになる。
- (5) 左端の番号(1)は回答例の通し番号。NS19のNSはテストに協力してくれた日本語母語話者の略で、番号は日本語母語話者の通し番号である。またカッコ内の情報は、左から順にテスト回答者の性別、年齢、出身県を示している。
- (6) 筆者のこれまでの発話末詞研究で、ヨ発話の後の「同意+展開」という流れに言及したものはない。

参考文献

- 池田裕(1995)「待遇表現の諸相7 終助詞と丁寧さ」『言語』第24巻11号 pp.102-103
大修館書店
- 今村和宏(2011)「終助詞『よ』『ね』の『語りかけタイプ』と体の動き」『言語文化』第48号 pp.37-51 一橋大学
- 伊豆原英子(2003)「終助詞『よ』『よね』『ね』再考」『愛知学院大学教養部紀要』51巻2号 pp.1-15 愛知学院大学
- 闇暁娣(2016)「中国語と日本語の女性ことばのポライトネス—語気詞と終助詞に注目して—」『岩大語文』第21号 pp.76-94 岩手大学語文学会
- 大島デイヴィッド義和(2013)「日本語におけるイントネーション型と終助詞機能の相関について」『国際開発研究フォーラム』第43号 pp.47-63 名古屋大学
- 大曾美恵子(1986)「誤用分析1『今日はいい天気ですね。』—『はい、そうです。』」『日本語学』第5巻9号 pp.91-94 明治書院
- 片桐恭弘(1995)「終助詞による対話調整」『言語』第24巻11号 pp.38-45
大修館書店
- 加藤重広(2001)「文末助詞『ね』『よ』の談話構成機能」『富山大学人文学部紀要』第35号 pp.31-48 富山大学人文学部
- 神尾昭雄(1990)『情報のなわ張り理論』大修館書店
- 顔暁冬・松村瑞子(2013)「中国における日本語教育の現状と分析：日本語終助詞『よ』『ね』『よね』の扱い方を中心に」『言語文化論究』第30号 pp. 39-53
九州大学大学院言語文化研究院
- 金水敏(1993)「終助詞ヨ・ネ」『言語』第22巻4号 pp.118-121 大修館書店
- 金水敏・田窪行則(1998)「談話管理理論に基づく『よ』『ね』『よね』の研究」堂下修司・新美康永・白井克彦・田中穂積・溝口理一郎(編)『音声による人間と機械の対話』pp.257-271 オーム社
- 高民定(2011)「日本語学習者の『よ』『ね』『よね』について—日本語初級・中級教科書の機能分析を中心に」『国際教育』第4号 pp.11-23 千葉大学国際教育センター
- 崔英才(2016)「接触場面における終助詞『ね』『よ』『よね』の機能分析—発話連鎖の視点から—」『千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書』第307巻 pp.19-36 千葉大学大学院人文社会科学研究所
- 西郷英樹(2005)「終助詞『ネ』『ヨ』を使う理由—『背景化』『連鎖性』という概

- 念を用いてー』『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』 第 15 号 pp.43-63
 関西外国語大学留学生別科
- 西郷英樹 (2011) 「日本語教科書での終助詞『よね』の扱いに関する一考察」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』 第 21 号 pp.89-114 関西外国語大学留学生別科
- 西郷英樹 (2012) 「終助詞『ね』『よ』『よね』の発話連鎖効力に関する一考察ー談話完成タスク結果を基にー」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』 第 22 号 pp.97-117 関西外国語大学留学生別科
- 西郷英樹 (2015) 「プロフィシェンシーと『ね』『よ』『プロフィシェンシーを育てる 3 談話とプロフィシェンシー』(鎌田修・嶋田和子・堤良一編) pp.112-145 凡人社
- 西郷英樹 (2016) 「終助詞『ね』『よ』『よね』の発話連鎖効力に関する一考察ー大規模談話完成テスト調査報告ー」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』 第 26 号 pp.101-127 関西外国語大学留学生別科
- 柴原智代 (2002) 「『ね』の習得ー2000/2001 長期研修 OPI データの分析ー」『日本語国際センター紀要』 第 12 号 pp.19-34 国際交流基金
- 白井純子・白井英俊 (2016) 「幼児の用いる終助詞：終助詞の習得順序と幼児の用いる終助詞『ね』『よ』の機能について」『日本語学』 第 35 卷 11 号 pp.46-57 明治書院
- 立部文崇 (2014) 「義務的に用いられる終助詞『よ』の考察」『徳山大学論叢』 第 78 卷 pp.75-104 徳山大学経済学会
- 陳常好 (1987) 「終助詞ー話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための文接辞ー」『日本語学』 第 6 卷 10 号 pp.93-109 明治書院.
- ナズキアン富美子 (2005) 「終助詞『よ』『ね』と日本語教育」鎌田修・筒井通雄・畑佐由紀子・ナズキアン富美子・岡まゆみ (編) 『言語教育の新展開 pp.167-180 ひつじ書房
- 蓮沼昭子 (1995) 「対話における確認行為 『だろう』『じゃないか』『よね』の確認用法」『複文の研究 (下)』(仁田義雄編) pp.389-419 くろしお出版
- 初鹿野阿れ (1994) 「初級日本語学習者の終助詞習得に関する一考察ー『ね』を中心としてー」『言語文化と日本語教育』 第 8 号 pp.14-25 お茶の水女子大学日本語文化学会
- 服部侑介・岡夏樹・深田智 (2017) 「人とロボットのインタラクションを通じた終助詞『ね』の意味獲得 (ヒューマンコミュニケーション基礎)」『電子情報通

- 信学会技術研究報告』 116 (436) pp. 77-82 電子情報通信学会
- 深尾まどか (2005) 「『よね』再考一人称と共起制限から」『日本語教育』
第 125 号 pp.18-27 日本語教育学会
- 船戸はるな (2012) 「継続的な文字チャットによる日本語学習者の終助詞『ね』の
使用の変化：必須要素/任意要素の観点から」『日本語教育』 第 152 号 pp.1-13
日本語教育学会
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』くろしお出版.
- 森田笑 (2017) 「相互行為詞—行為と行為の間における相互行為の秩序の交渉を捉
える—」『日本語学』 第 36 卷 4 号 pp.152-163 明治書院
- Cook, H. M. (1990). The sentence-final particle 'ne' as a tool for cooperation in Japanese
conversation. *Japanese/Korean Linguistics* 1 pp. 29-44.
- Katagiri, Y. (2007) Dialogue functions of Japanese sentence-final particles 'yo' and 'ne'.
Journal of Pragmatics 39(7) pp.1313-1323.
- Maynard, S. K. (1993). *Discourse modality: Subjectivity, emotion, and voice in the
Japanese language*. Amsterdam: John Benjamins.
- Morita, E. (2012a) Deriving the socio-pragmatic meanings of the Japanese interactional
particle ne. *Journal of Pragmatics* 44(3) pp. 298-314.
- Morita, E. (2012b) "This talk needs to be registered": The metapragmatic meaning of the
Japanese interactional particle yo. *Journal of Pragmatics* 44 (13) pp. 1721-1742.
- Saigo, H. (2011) *The Japanese Sentence-final Particles in Talk-in-Interaction*,
Amsterdam : John Benjamins.
- Sawyer, M. (1992) The development of pragmatics in Japanese as a second language: the
sentence-final particle NE. In G. Kasper (Ed.), *Pragmatics of Japanese as native and
target language* (pp. 85-113) Honolulu: University of Hawaii, Second Language
Teaching & Curriculum Center.
- Takubo, Y and Kinsui, S. (1997) Discourse management in terms of mental spaces. *Journal
of Pragmatics* 28(6) pp.741-758.

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP15K02496 の助成を受けたものです。

(hsaigo@kansai.ac.jp)

